

令和4年度市教研造形部会 美術科学習指導案

日時 令和4年 11 月 15 日(火)

展開学年 第 1 学 年

展開場所 美 術 室

1 題材名

デザイン・彫塑「なりたい神様に変身!オリジナル仮面づくり」

2 題材について

(1) 題材観

仮面は変装・化身のために顔を覆う造形物の「マスク」をさすが、全身を覆う巨大なものもある。使用の目的や場面は世界の地域や文化により違いがあるが、人類の本能に近い変身願望を満たすものとされる。自分ではない別の存在になるために使うことが多く、目に見えない神や精霊、鬼など超自然的な存在を表現するアイテムとして世界で活用されてきている。(※参照1)日本でも歌舞伎の隈取や能面、なまはげなどの祭礼や演劇、地域の伝統行事で、独自の仮面文化が根付いている。今回は、実際に仮面を作り被ることで、なりたい存在になれる「変身」という神秘的な体験を通して、民族的な文化や、身近な美術文化に興味をもってもらいたい。本題材は、学習指導要領の第1学年の「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A 表現(1)ア(2)〔共通事項〕にあたる。

今回制作に用いる素材は紙粘土とアクリル絵の具である。本題材は入学して1年生が初めて行う彫刻分野の授業であるため、比較的扱いやすい教材を選んだ。材料の特徴として、紙粘土は軽く、程よい硬さがあり、細かい装飾や大胆な形を簡単に作ることができる。また、速乾性があり乾いたときにひび割れしにくい。ひび割れても上から修正可能なため、1週間に1程度の短時間の作成に向いている。仮面の形を作る体験を通して、粘土を使った立体的な表現方法や3次的に物を見る力を身に付けさせたい。

また、紙粘土は絵の具ののりが良く、絵の具の綺麗な色を出すのに効果的である。着彩で使用するアクリル絵の具については、水彩絵の具よりも早く乾き、発色がよく、薄く塗り重ねることや失敗しても厚く塗り重ねることができる。そのため、失敗をおそれず各自に適した表現方法を探りながら制作できると考えた。更に、塗り方を工夫することで表現の幅が広がる描画材料である。以上の理由から材料を選定した。

(2) 生徒観

対象とする1年生の生徒たちは、心身共に発達のと時期にあり、悩みや自分の気持ちを素直に表現できない場面が見られる。また、感染症対策でマスクを日常的に着用し、表情を表に出すことに抵抗を感じている生徒も多い。そこで、本題材で仮面の表情、形、色などを考え、表現する活動を通して、普段自分の心に潜む思いや考えと向き合い、素直に表現することの喜びを感じる時間にしたい。

今回本時の授業を行う生徒たちの多くは紙粘土を小学校で使用した経験があり(アンケート結果⑧)、立体的な作品をつくるのが好きな生徒が多い(アンケート結果⑨)。よって、本題材は比較的取り組みやすいと考える。一方、アクリル絵の具を初めて扱う生徒が多いため(アンケート結果①)、彩色の段階で特性を説明し、綺麗に色が塗れるように指導する必要がある。2年生のデザイン課題でも使用する予定であるため、1年生の段階から透明水彩との違いを感じ、水分を少なくして絵の具を均等に塗る経験を積ませたい。また、前期

の授業で、色相環や色のイメージの違いについて学んでいることから、色の意味を考えさせながら作品づくりに取り組ませたい。また、アンケート結果⑤～⑦より、仮面が世界でどのように使われているか、ほとんど知識としては知らない生徒が多かった。文化的な仮面の価値については授業の中で触れていきたい。

アンケート結果（％）

①アクリル絵の具を使ったことがあるか	ある(41)	ない(58)	
②アイデアを考えることは好きか	好き(55.6)	好きではない(13.9)	どちらでもない(30.6)
③アイデアを形にすることは好きか	好き(50)	好きではない(13.9)	どちらでもない(36.1)
④アイデアを形にすることは得意か	得意(11.8)	得意ではない(38.2)	どちらともいえない(50)
⑤仮面が世界でどのように使われているか知っているか	知っている(17.6)	知らない(82.4)	
⑥仮面に興味があるか	ある(28.6)	ない(14.3)	どちらともいえない(57.1)
⑦仮面について知っていることがあれば書いてください	・お祭りで売っている・顔を隠せる・かたい ・仮面舞踏会・いろいろな種類がある		
⑧紙粘土を使ったことがあるか ある人はつくったものを書いてください	ある(91.7) ・将来の自分・ダンスする人・バナナ・動物など		ない(8.3)
⑨立体的なものをつくるのと、平面的なものをつくるのでは、どちらが好きか	立体的なもの(50)	平面的なもの(22.2)	どちらともいえない(27.8)

(3) 指導観

本題材では、仮面のイメージを形にしていく制作過程に重点を置いて指導を行う。そのためには、生徒の作りたい仮面のイメージと、それを具体的な形にしていくための手立てを結びつけることが大切である。アンケート結果②、③、④の結果から、アイデアを考えることは好きだが形にすることについて難しさを感じている生徒が多かった。生徒たちのもっている豊かな発想力を引き出すためには、仮面のもつ神秘性や民俗的に根付く文化を知り、なりたい存在に簡単に变身できることの不思議さ、面白さを実感することが大切である。自ら考え発想する能力を育てるために、仮面の形の面白さや色、質感の表す意味について考えを深め、発見したことを生徒同士と共有したうえで、各自のイメージする仮面を、より具体的に、立体におこした時の形を想像させながらメモやスケッチさせたい。

粘土で形を立体におこす作業の途中では、イメージ通りの形ができないと悩む生徒に形のサンプルを用意し、それらを見せながら細かいパーツの作り方を指導していく。その際、立体感を意識しながら細部の形を作ることを意識させたい。特に生徒がつまづきやすいポイントとして、力の加減・粘土の厚さ・道具の使い方・接着の方法・水分の加減などが挙げられる。これらについては各々の作品によって加減が異なるため、机間巡視をしながら、生徒のイメージに近づけるよう随時個別指導していく。質感や素材感にこだわりを持って制作できるように、テラコッタ風の粘土も使えるように用意しておく。粘土だけでも表現次第でいろいろな質感が出せる面白さに気づいてもらいたい。

3 題材の目標

(1) 【知識及び技能に関する題材の目標】

- ①形や色彩などの造形的な要素に着目し、それらが仮面の全体の印象にどのように働いているか理解する。〔共通事項〕
- ②材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。

(2) 【思考力・判断力・表現力等に関する題材の目標】

- ①自身が変身したい仮面の特徴や性格などを基に、主題を生み出し、仮面全体と細部の関係などを考え、創造的かつ豊かに発想し、表現の構想を練ることができるようにする。〔A 表現(1)〕
- ②仮面の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げることができるようにする。〔B 鑑賞(1)〕

(3) 【学びに向かう力・人間性等に関する題材の目標】

- ①世界の仮面文化に興味をもち、仮面の形の面白さや色、質感などのよさや美しさを味わおうとする態度を養う。

4 評価の観点

(1)・形や色彩などの造形的な要素が仮面全体の印象にもたらす効果を理解している。〔共通事項〕

- ・材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表している。【知識・技能】

(2)・自身が変身したい仮面の特徴やキャラクターの性格などを基に、主題を生み出し、全体のイメージと目や鼻などの部分の関係などを考え、創造的に工夫し心豊かに表現の構想を練っている。〔A 表現(1)〕

- ・仮面の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。〔B 鑑賞(1)〕。【思考・判断・表現】

(3)・世界の仮面文化に興味をもち、仮面の形の面白さや色、質感などのよさや美しさを味わおうとしている。

- 【主体的に学習に取り組む態度】

「オリジナルアイマスクづくり」の題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 仮面のもつ歴史的背景や使用場面などから、仮面の特徴や仮面をかぶる意図を理解している。 技 材料の特性を理解し、主題に合った色や形、紙粘土や絵の具が効果的に使われている。 技 見通しをもって制作し、立体的で独創的な形に仕上げている。	発 変身したい神様のイメージを基に主題を生み出し、細部の形の特徴をふまえ、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 制作途中の作品や完成作品を客観的に見て、感じたことや発見したことを具体的な言葉でわかりやすく伝えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態鑑 世界の仮面文化や仮面を被る意味について関心を持ち、作者の心情や表現の意図と工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 態表 創造活動の喜びを味わい、形の面白さや質感などから主題を生み出したり意図に応じて粘土で造形したりする活動に積極的に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画と評価計画（本時5／9）

時	●目標・学習活動	評価・留意点【評価資料】
第1次 事前調べ	●世界の仮面の歴史や使用目的、場面について調べ、文化の違いや仮面の持つ役割を知る。 ・夏休みを使い、インターネットや書籍を参考に、興味のある仮面について調べ、ワークシートにまとめる。	知世界の仮面の形の特徴や仮面の使用意図について理解できているかを評価する。 【事前調べ用ワークシート】 ・授業の導入までに生徒のワークシートで参考になりそうな作品を数点ピックアップし、地域別や目的別にまとめて幅広いタイプの仮面を見られるようにしておく。
第2次 導入・鑑賞 (1h)	●ワークシートからお互いの調べた仮面について共有し、目や鼻の形の意味を考える。 ●世界の仮面文化の違いや仮面から受ける印象・特徴を観察し、仮面を被る意図を考える。 ・それぞれが調べた世界の仮面について、素材感や形の特徴に注目し、ワークシートに気付いたことを書き出す。	・級友の調べた様々な種類の仮面を見て、文化の違いや形の特徴について気づいたことをまとめられているかを見取る。 ・発見が少ない生徒に対して具体例を示すなど支援する。 態鑑提示された参考資料や友人の調べた仮面に関心を持ち、形の面白さを感じ取ろうとする態度を評価する。【ワークシート】
第3次 構想 (2h)	●自分が変身したい神様についての様々な表情や形を考え、プリントにスケッチする。 ・変身したい神様についてアイデアを思いつく限り描きだす。 ・仮面のイメージに合った色を考え、色鉛筆で塗る。 ・友人の意見を聞きながら、デザインを決める。 ・特に目元や鼻の形や色は詳細に描く。	・導入で実際に仮面が使用される場面の動画を見せ、「変身する意味」を考えるように投げかける。仮面を被り「神様」に変身することでどんな力が使えるのか、見た目の特徴に関連付けて考えさせる。 発主題に合った形や色を考えているかを見る。 【アイデアスケッチ】 技具体的な色や質感をメモするなどして、表現したい仮面が伝わりやすいように工夫しているかを評価する。【アイデアスケッチ】 GIGAタブレットでアイデアを共有し、スケッチの内容が足りていない生徒により具体的な形を思い浮かべられるようにアドバイスを行う。 ・時間がある生徒には、振り返りシートを使い、制作計画を立てさせる。
第4次 造形 (2h) 本時	●アイデアスケッチをもとに、紙粘土を芯材に盛り付け、立体的に迫力ある仮面を造形する。 ・紙粘土を下地に使う分だけ取り出し、平らになるように芯材に張り付ける。 ・パーツを作り、乾いた後で芯にボンドで接着	知・技道具の使い方を工夫し、紙粘土の特性を生かし、計画的に制作を進めているかを評価する。 【制作途中の作品・振り返りシート】 ・振り返りシートは今後の制作の目標や制作計

	する方法と、粘土が乾かないうちにパーツを芯材に盛り付けていく方法の、どちらかの方法を選び造形する。 ・粘土ベラや粘土版を用いて、面を意識し立体的に表す。	画を立てるために活用することを補足説明する。 態表活動を振り返り、計画的に制作しようとしているかを見る。 【活動の様子・振り返りシート】
第5次 採色・ 仕上げ (3h)	●アクリル絵の具でアイデアスケッチのイメージに近づけるように彩色する。 ・アイデアスケッチを参考に、アクリル絵の具で彩色する。 ・彩色後にニス塗るため、白い部分があっても作品全体に塗り残しのないように色を塗る。 ・仮面の持つ質感などを出せるように工夫する。 ・ニスを塗り、乾かす。	知・技アクリル絵の具の特性を理解し、イメージに合った質感を出すために工夫しているかを見る。 【制作途中の作品】 (※授業終了後 技塗り残しがなく、完成度の高い作品を仕上げているかを見る。【完成作品】) 態表活動を振り返り、次回へ活かそうとしているかを見る。 【活動の様子・振り返りシート】
第6次 鑑賞 (1h)	●互いの作品を鑑賞し感想を述べ合い、作品の良さや新しい価値観に気付く。 ・カードに仮面の説明書を書く。 ・互いの作品とカードを鑑賞し、感想を述べ合う。 ・仮面を被り、集合写真を撮る。	鑑自分の作品について、読む人のことを考えて分かりやすく仮面の説明が書けているかを見る。 【作品カード】 態鑑友人の作品の良いところや面白い所を発見し、具体的な感想やアドバイスを述べることでできているか記述を見る。【鑑賞プリント】 ・友人の作品と自分の作品を比較した上で、制作を振り返り、反省点を次回の制作に活かせるよう声をかける。

6 研究主題との関連

本校の美術科の研究主題は「主題に対し柔軟に発想し、新しい価値観を認め合う指導法の工夫」である。新しい価値観を生み出すために、本時では2つの点に留意して授業を展開する。

視点1:授業の最後にまとめの時間を取り、作品の制作過程の様子を紹介することで、様々な表現方法を認めていく。紹介された生徒はこれにより次回への制作意欲を高めることができる考える。

視点2:主題に対して柔軟に発想するために、制作途中でより主題に適したデザインに変更したり、追加したりすることでより質の高い作品を作成することができる考える。生徒自信の欲求をなるべく作品に反映するため、アイデアを形に落とすためのアドバイスは個別指導で適宜行う。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 道具の使い方を工夫し紙粘土の特性を生かし、計画的に制作を進めることができる。(知識及び技能)
- 創造活動の喜びを味わい、粘土の特性を生かしながら、制作の手順などを考え、意図に応じて見通しをもって造形する活動に積極的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力、人間性)

(2) 本時の観点別評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知・技 紙粘土の特性を生かし、道具を工夫し見通しをもって計画的に制作を進めている。		態表 創造活動の喜びを味わい、制作手順などを考え、意図に応じて粘土で造形する活動に積極的に取り組もうとしている。

(3) 本時の展開 (5/9)

時	●目標・学習活動	生徒の反応と教師の指導	評価・留意点【評価資料】
5分 (導入、準備)	●制作の準備をする ●目標 大:手順を考えてつくろう 小:立体的なかたちを意識しよう ・AとBどちらのパターンで制作するのか手順を考える。	・パーツをつくり乾いた後で芯にボンドで接着するパターンAと、粘土が乾かないうちに大きなパーツを芯材に盛り付けていくパターンBがあることを伝える。(2つのパターンを選択してつくっていく。AとBを組み合わせてつくることも可とする。) ・質感のサンプルを提示する。	・導入はサンプルを見せながら最低限の説明のみにすることで、制作時間を多くとるようにする。
30分 制作	・粘土ベラや粘土板を用いて立体感、質感を意識しながら主題に沿ったかたちを制作する ・アクリル絵の具をすぐに使用したい生徒は各自で用意する。 ・残った粘土が乾かないように袋に入れておく。 ・ヒビができないように水をつけながらならす。	・パターンA ・必要があれば、アクリル絵の具で粘土に色をつける方法を伝える。粘土の保管用にサランラップを渡す。 ・パターンB 次回から着彩に入れるように粘土はなるべく全て使い、大きなパーツを作り終えるように伝える。 ・立体感の確認は横顔を見ることがコツであると伝える。	・途中でアイデアを変えてもよいことにする。 ・プラスチック板を使い、角をしっかりと立たせる。 知・技 【制作中の様子】 ・GIGAタブレットで制作途中の作品の写真を記録する。

		・作業中の生徒で工夫が見られる場合、GIGAタブレットで手元の動画を撮影し、授業のまとめで紹介する。	
	※「努力を要する生徒への手立て」 ・各自のデザインした大きなパーツごとに粘土を分け、大きなかたちをつくることを優先する。 ・形のサンプルを用意し真似をする。 ・型ぬきなど形が利用できるものを組み合わせてつくる。		
5分 (まとめ、紹介)	・作業を止め、話を聞く。 ・友人の作品を見ることで制作の進捗を各自確認する。 ・参考になりそうな方法を真似して制作に取り入れる。	・2～3人の生徒の作品を紹介する。 ・「こんな方法もあるよ」となるべく多くの方法を見せることで各自の出した質感やかたちに合った方法を見つけていけるように示唆する。	・道具が多いため、振り返りシート配布のタイミングに気をつける。
10分 (振り返り、片付け)	・本日の授業の振り返りをし、目標達成度を確認する。 ・次回の制作計画(目標)をメモする。 ・疑問点があれば記入する。 ・道具の片付け ・振り返りプリントの提出 ・班ごとにチェックをもらい、退出する。	・振り返りシートを配布し、次回の目標も踏まえ記入させる。 ・片付けの終わった班からチェックをする。	態表 【振り返りシート】

8 指導にあたっての注意事項

(1) 新型コロナウイルス対応について

①作業机は向かい合わせにせず、横に3人ずつ座る形で個別に作業する。

②作業中の同時移動人数を減らすことで、密集、密接を避ける。

座席ごとに準備・片付け分担を決め、使用時間を区切り、水道を使う。※図1

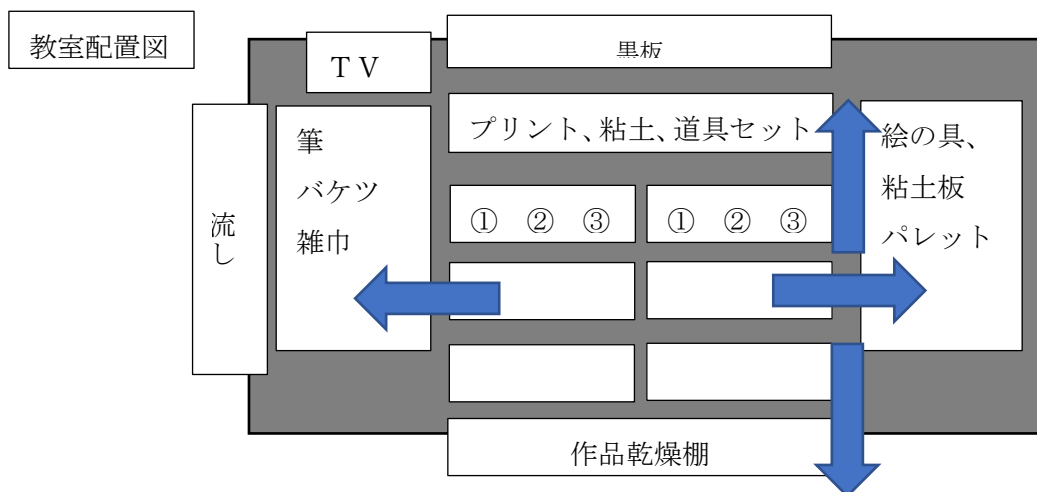
③雑巾や紙パレットは使い捨てにする。アクリル絵の具は使用する分だけパレットに出す。

※図1 密を避けるため、準備や片付けは机ごとに分担する。

座席番号

① ② ③	①絵の具(班1)、粘土版、パレット ②プリント、粘土、道具セット(班1) ③バケツ(班2)、雑巾、筆(平筆、丸筆、面相筆)
-------	---

※粘土、プリントは教科係が配布する。
作品は各自で準備する。



(2) 使用する教材、用具

・教員が用意するもの(学校備品)

参考資料集や画集、参考資料プリント、事前調べ用ワークシート、アイデアスケッチ用紙、振り返りシート、作品カード、鑑賞プリント、アクリル絵の具 12 色セット、筆洗バケツ、丸筆、紙パレット、雑巾、木工用ボンド、サランラップ、粘土板、粘土用ベラ、予備粘土(テラコッタ)、爪楊枝、水入れ容器、粘土用型数種類、GIGAタブレット

・生徒が用意するもの

筆記用具、色鉛筆、油性マジック、GIGAタブレット

・教材費で購入するもの

紙粘土(AT ねんど M サイズ保存袋入り)、仮面の芯材(プラスチック製)(粘土と仮面で 500 円)

・消耗費で購入するもの

予備粘土(テラコッタ)

(3) ワークシート、振り返りシート、鑑賞プリント、制作手順、参考資料、生徒作品(別紙参照)

※1 参照 出典:コトバンク 日本大百科全書(ニッポニカ)「仮面」の解説(<http://kotobank.jp>)